

日本ソルフェージュ研究協議会

第11回 講演会

バロック舞曲の理論と即興

～ダンスからのアプローチ：“スペインのフォリア”を例に～

今回のテーマは、バロック時代の音楽とダンス。いずれも往時の宮廷生活において貴族の嗜みとされたものですが、技量を誇示するパフォーマンスとは趣を異にしています。ダンスは洗練された所作を身につける基礎として、姿勢や歩き方に対する配慮に始まります。その上にステップが体系化され、音楽との対応が明確にされ、一つの様式〈バロック・ダンス〉が形作られました。私たちもその道筋を辿り（どうぞステップを一緒に！）、音楽とダンスの関係を確かめていきましょう。さらにバロック音楽の醍醐味といえる即興演奏へと関心を広げ、舞曲を現代の音楽教育に応用する可能性についても考えます。

日時：2019年 **5月12日** (日) 14時30分開演 (14時開場)

会場：東京藝術大学音楽学部第1ホール

講師：市瀬陽子、竹内太郎



市瀬陽子 (いちせ ようこ：ダンス)

舞踊史研究者、ダンサー、振付・演出家。立教大学、東京芸術大学卒。15～19世の史料研究に基づく舞台を制作、ダンス・ユニット〈セーヌ・エ・サロン〉を率いてサントリーホール主催企画 (2009/2012) にて振付作品を発表。オペラやバレエの振付・演技指導、ダンスと音楽、美術に関わる講演やワークショップなどを行う。近著に『バレエとダンスの歴史』(平凡社)、DVD『時空の旅～バロックダンス・ファンタジー』(レコード芸術特選版) など。聖徳大学准教授、東京芸術大学、洗足学園音楽大学、昭和音楽大学講師。

竹内太郎 (たけうち たろう：バロック・ギター)

リュート／アーリーギター演奏家／研究家。立教大学卒、ギルドホール音楽院古楽科修了。ベルリンフィル、ナイジェル・ケネディ、サイモン・ラトルらと共演。CD「フォリアス！」「アフエットーソ」「可愛いナンシー」(読売新聞／朝日新聞推薦)、2019年には新譜「スコットランドのブルーベル」をリリース。オックスフォード大学出版『アーリーミュージック』誌に学術論文「リージェンシーリュートの再発見」を発表。英国リュート協会前理事。ケンブリッジ大学リサーチグループ所属。ロンドン在住。公式HP：<http://tarolute.crane.gr.jp>

▶入場料無料

(正会員以外の方は以下の経費負担をお願い致します。)

一般 3,000 円、学生 1,000 円、賛助会員 1,500 円

▶問い合わせ先：

日本ソルフェージュ研究協議会事務局

Tel. 090-5566-8567 (留守番電話)

E-mail : ni-sol-ken@island.dti.ne.jp

<http://www.ni-sol-ken.com/index.html>

Homepage



facebook

